

村のがまだしモン

No.14

村に移住して頑張っている若者を
紹介します

編集後記

広報委員になり、2年目を迎えました。村の情報誌の1つとして皆様に新しい情報をわかりやすく伝えるため、委員全員で試行錯誤しながら議会広報を作成しております。広報クリニックス等の研修も受けながら取り組みをしておりますが、まだまだ不慣れな部分も多く日々勉強しています。

今回は、災害公営住宅建設の現状及び詳しい内容や村としての新規事業の取り組みを掲載しております。また連載であります「村のがまだしモン」では、今回も2家族の方にインタビューをさせていただきました。ご協力頂きありがとうございました。ございました。

これから、夏を迎え本格的に暑さも厳しくなりますが、どうぞお体には十分お気をつけください。

今村 輝宏

議会広報特別委員会

委員長 丸野健一郎
副委員長 太田 吉浩
委員 笠野 眞喜
" " " 今村 辰喜
" " " 今村 輝宏
" " " 今村 輝宏

発行責任者

議長 荒牧 俊一

梶島 剛士さん・のりこさん

下田区在住

福岡県太宰府市生まれ、大学進学で上京。その後28歳のとき栃木県で農業研修、30歳で九州に戻って就農場所を探していた時に、ぼっこわばさを紹介して頂き訪問。しばらく滞在し、手伝いをしながら家・土地を探していたところ、縁あって今の地に…。景色の良さ、雄大な自然、人の温かさが気に入って決意したとのこと。



笑顔の似合う梶島ファミリー

村民となつて12年目、のりこさん（玉名市出身）と結婚、7年目を迎える。一男一女に恵まれ現在4人家族。

村に移り住んでからのメリットは、とにかく風景が美しい、水がおいしく温泉もたくさんあり、子どもたちへのまなざしが温かく子育てしやすい環境である。デメリットとして言えば、まだ子どもたちが小さいので専門医療機関（小児科）が遠いのと、高校以降の進学先の選択肢が少なかつたり、遠くなつてしまう。

今後、望むことは、古くからの伝統行事・文化・習慣の良きところは守っていきながら、新しい時代に合わせた取り組みや人材活用などは進めていく…。そのような今の「いいバランス」の村の雰囲気これから深めていければ、より良い村になると思います。

（取材者…今村竜喜委員）

山口 雄大さん・朋子さん

第七駐在区在住

山口さんは、東京生まれ、神奈川県育ち。語学の勉強をしたいと海外に行かれた時に、石川県出身の朋子さんとは知り合われ、4年前に日本に帰り、内牧のホテルで仕事をする事になり阿蘇での生活を始められました。二人は移住する場所を探すため、四国や中国地方を見て回ったそうです。そんな時、村に仕事が見つかり移住されました。村に移り住んでの感想はの質問に、「村内の雰囲気がいい。そして水が美味しい」と笑顔で語る山口さん。

現在ご夫婦は久木野地区で、タコ焼屋「万福小屋」ぶらこ」を経営。もうすぐ家族が3人になるので、永住する家を探しており、できれば古民家を見つけないと言われています。古民家にこだわる理由を尋ねると、将来はゲストハウスを造り、

外国人向けの民泊を考えているとの事。ただ3年間は、家族が増えるのでタコ焼き（どんぶらこ）で頑張る、少しずつ夢を実現させて行きたいと語っておられました。夢が早く実現して、村内に外国人観光客が増える事を期待したいと思えます。

（取材者…栃原辰郎委員）



夢に向けて頑張る山口夫婦